

結（むすび）～龍溪硯の制作 を高遠高校の生徒と共に～ ～チーム「書」どう～



1. 6月23日 泉逸男 先生の講義

- ・ 龍溪硯を含む、和硯（日本国内で産出される石でつくられた硯）の歴史について講義を受けた。
- ・ 様々な硯石の特徴や、龍溪石の硯石としての魅力について学んだ。また、硯を制作するための具体的な手順を確認した。
- ・ 硯制作を行う職人（硯工）が減少しているという現状についてお聞きし、私たちが伝統文化を継承したり、伝えたりしていくことの重要性を改めて感じた。



- ・ 泉先生や翠川氏（硯工）の作品を鑑賞し、硯制作に対するイメージを膨らませた。
- ・ 自分が硯にする龍溪石を選んだ。



2. 8月2日 硯制作

- ・ 硯の制作第1回目を泉先生のご指導の下、大学生のみで行った。
- ・ 第2回目・第3回目に予定している高校生との交流の際に、大学生が見通しをもち活動をスムーズにするために行った。

※制作の際は、けが防止のため皮手袋を着用する。

※硯を彫って出た粉を吸い込まないように、
作業を行う際はマスクを着用する。



工程

○硯に下書きをする

彫る形を決め、下書きをする。

石は、幅の狭い方を前とする。



○ノミを使って陸を彫る

平面になるよう、平刀を使って彫り進めていく。

縁の部分は丸刀で角度を付けながら削る。

肩にノミを当て、体全体を使って削っていく。

※墨をすり、筆を整える部分を陸という。



○海を彫る

海となる部分に鉛筆で印をつけ、さらに彫り込んでいく。

硯の裏側も彫り、据わりをよくする。



○砥石で硯面を整える

ある程度削れたら、海に水を入れて砥石でこする。

円を描くように砥石を動かす。

※墨を入れる部分を海という。



3. 感想

- ・実際に石を削り自分自身の手で硯を制作する作業は、想像していた以上に力と根気を必要とするものでした。手の力だけでなく、体全体を使って力を入れる必要があるため、非常に体力がいる作業だと感じました。
- ・石の選定からデザイン決めなども行ったことで、硯工の方々が一つ一つの硯にどれほどの思いと時間を注いでいるのかを実感しました。
- ・次回以降の高校生との交流では、今回硯を制作する中で感じたことを共有して、地元の伝統文化についてお互いに考えを深める機会としていきたいです。

4. 今後の展望

○第1回講座

10月16日 高遠高校での講座
第2回目硯制作

○第2回講座

11月21日 信州大学での講座
第3回目硯制作

○学生書道展

12月19日～12月22日を予定
ぜひお越しください！

ご清聴ありがとうございました。

